

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700091		
法人名	株式会社めいと我孫子布佐		
事業所名	めいとケアステーションこほく		
所在地	千葉県我孫子市中峠2964-1		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和5年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自宅などでの自立した生活が困難になってしまったご利用者様に対して、家庭的な雰囲気の中で日常生活や季節行事、アクティビティ等を行いながら楽しく安心して生活が送れるように支援をしている。  
また、お掃除のお手伝いや洗濯物の片付けのお手伝いなど皆さんに役割なども持っていただきながら過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サービスの充実を意欲的に進めている管理者を中心に、職員間の介護方法のバラツキを無くすための努力が続けられている。社内研修年間計画に沿って全職員に参加が徹底されている。当ホームには法人の介護職養成を行う「めいとカレッジ」の講師が3名おり知識と経験を兼ね備えたグループホームと言える。同法人の施設の厨房が布佐にあり一部の利用者も職員に同伴して食事を取りに行くことが日常の活動となっている。また、行事食についても別途の予算を組み豪華な食事を提供し、生活にメリハリを付けている。アンケート結果からも利用者、家族の満足度は高いことがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に心得の掲示がされており、申し送り時に唱和をしている。	めいとケアグループの定めた5項目からなる「五訓」を施設入り口に掲示し、午後定時に行われる申し送り時に職員で唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルスの影響により、触れ合える機会が持てない状況である。	地域住民との接触は新型コロナウイルスの影響で少ないが、管理者による公民館での体操指導や移動スーパーが施設駐車場内に週一回来る際、地域との交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談の看板を設置したりして地域の方が訪問しやすい様務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年8月、10月と再会したが、予定していた12月、施設でコロナウイルスでクラスターとなってしまい中断している。	コロナ禍ではあったが令和4年度は8月、10月と民生委員、我孫子市高齢者支援課、地域包括支援センターを招いて開催した。12月予定は施設内でのコロナウイルスクラスター発生で中断した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な施設の状況や入居者様の情報などでの連絡を取ったりしている。	高齢者支援課とは密に連絡を取っているが、施設内に併設されている小規模多機能型居宅介護施設やグループホームへの問い合わせが多く、地域内の信頼を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	適宜、身体拘束虐待についてのカンファレンスなどを行い、共通の意識を持って支援に取り組んでもらっている。	毎年めいとケアグループによる社内研修年間計画が作成され、特に拘束禁止・虐待防止・倫理についても研修会が行われ、実施後の職員アンケートからも意識の変化がうかがえる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修などを行い職員の理解に努めている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などを活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前にご家族様にご理解が得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、ご入居様の意見や要望の聞き取りを行ったり、必要なお連絡などのご相談や状況説明など行っている。	緊急を要する場合は電話で、それ以外は主にLINEを通して家族の意見・要望を聞き取っている。事務所内での面接機会も設けている。利用者からは日常生活の中で話を聞き要望を受け止めながら対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングなどで意見交換を行い、運営に努めている。	令和3年度はコロナ禍の影響で毎月の職員会議を開催することも難しかったが、今年度は毎日の申し送り時と職員会議(月1回)を行い活発な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や賞与、技能手当など含め職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングや施設内での研修などを活用してケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響などで、交流をしていない		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご見学や面談などを行い、安心してご入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前のご見学や面談など行い、不安や心配が無くご入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居に際して、必要な支援について聞き取りなどを行い良いケアができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の様子をスタッフが共有して他利用者と穏やかに生活が送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、必要なご協力をして頂けるよう日頃より必要な状態報告などを行って情報共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響などで、交流を控えている	利用者の多くは地元で長く生活してきたので、地元になじみの人が多いがコロナ禍で交流が途切れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の性格などをスタッフが共有で把握し、食事の席を考慮したり会話が出来るよう考えたりしている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、何かあれば連絡、相談が出来るよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望に添えるよう支援している。	利用者と共に過ごす生活の中で食べたい物を皆で話題にして、寿司と天ぷらを行事食の日に提供した。帰宅願望を訴える時には日本地図を見て切符の手配などを話題にして本人の気持ち沿ったケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までご自宅で使われていたもの等をお持ちいただき、少しでもご自宅の様に生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や身体状態などをケース記録に残したりして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向などをもとに、日々の様子を含め作成している。	毎日の申し送り時や会議時等、日常的な職員からの報告を受けて看護師、医師とも相談している。家族と電話で確認し、半年毎に短期目標の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に残して情報共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて臨機応変な対応もできるように努めている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な機関との連携が図れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様とドクターとで話し合いを行って頂き、かかりつけとしてドクターの受診や訪問診療を行って頂いている。	家族と今後のかかりつけ医について話し合いを行った。ホームの提携する訪問クリニック(24時間オンコール可能)を希望する家族が多く、3月より変更しているが、入居前からのかかりつけ医を継続受診される利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切に報告、連絡、相談を行い協力支援体制が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクター、ナース、ワーカーと情報共有を行い協力支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居者様の状態により、ご家族、ドクターと話し合いご希望に添える対応が出来るよう支援している	重度化した場合は点滴等の医療的行為が必要ない場合、かかりつけ医(訪問診療医)と相談の上、対応すると契約時に説明している。これまで看取りを行った利用者の例などを家族に話して説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修や応急初期対応の訓練など定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練、避難訓練を行い緊急時に備えている	8月に消防署による火災を想定した避難訓練を行い、水消火器の訓練と指導を受けた。食料品の賞味期限を確認し、水と紙皿コップ類、衛生用品の3日分の備蓄がある。	日ごろから地域の自主防災組織等との連携を図り、災害時に相互に協力し合える関係づくりを検討したい。

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけや対応を心掛けプライバシーの配慮に努めている。	トイレ誘導時の声掛けを本人の気持ちを尊重して丁寧にして不快な気持ちにさせないように気をつけている。トイレ使用時にはプライバシーに気をつけつつ、ドアを開けっ放しにせず介助をするよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に洋服を選んでいただいたり、自己決定をして頂き支援出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や体操など決まっている所もあるが、その他はご本人の意思で過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の訪問理美容があり支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆で一緒に召し上がり、食器の片付けなども皆さんで手伝って行っている。	近くの同法人施設の厨房で調理された食事(昼食と夕食)を職員と利用者が一緒に車で取りに行き、食後の食器洗いや片付けを手伝う方もいる。おやつバイキング、餅つきの行事があり、料理クラブで餃子作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量などを記録に残し、食事形態にも工夫をしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の自立を促しながら、必要なところは声掛けや一部介助などを行い支援している。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで行えるよう自立支援を促しながら、必要なところは介助して支援している	バイタル表で排泄状況を確認し、トイレでの排泄を誘導し介助をしている。便秘の時には看護師に相談して排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクターと連携しながら、必要時内服薬の処方などして頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思や要望の確認を行い、ご利用者のその日の状態、状況に合わせてご利用して頂いている。	入浴介助時の緊急連絡用としてワイヤレスコールを近くに置いて安全の備えをしている。小規模多機能にある大きな浴槽は跨ぐことなく温泉気分で入浴でき、脱着衣係と2人対応ができるので、利用については検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事などの時間は決まっているが、その他の時間についてはご利用者様のペースで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設で管理させていただいており、個人ファイルで確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や食器拭きなどできる方には役割を持たせたりして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出の機会がない状態である。	毎日、近くの同法人施設の厨房へ利用者と共に食事を取りに車で行く事が日課(ドライブを兼ねた外出支援)となっている。近所の公園の桜や紫陽花の開花時期にあわせ見に行き、ホームの広い駐車場に移動スーパーが来る時には、利用者の買い物を支援している。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様が認知症のため、ご家族様や身元引受人の方に管理をして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご希望があった時やご家族様からご連絡があった時には話をしたりもしてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングでは食事以外にテレビやソファなども置いてあり、ご自由に過ごして頂けるような居場所作りをしている。	各ユニットの食事テーブルには感染予防対策の透明板が置かれ、午前と午後約1時間を消毒と換気時間にしている。利用者は小規模多機能の広いリビングに移動して体操やレクリエーション活動を楽しんでいる。床暖で暖かく季節の飾り付けがあり居心地よく過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを置いてそれぞれにリラックスが出来るように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れている物や家具類なども持ってきていただき安心して過ごして頂けるようにしている。	カーテン等のホーム備え付けの物を除き、家具や備品はそれぞれ使い慣れた物を自宅より持ち込んでいる。転倒防止や安全面を一番に配慮してベッドや家具を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限りご自分でできる事が行えるよう自立を促し支援をしている。また、手すりなどの設置をして安全に配慮もしている。		